

千葉県鮮魚商協同組合連合会

副会長 齊藤 卓

【木更津鮮魚商（協）の概要と齊藤理事長の横顔】



【県鮮魚連の沿革】

昭和25年の水産物の統制撤廃後は各地の市場は機能を取り戻し、それぞれ独自の活動をつづけていたが、昭和40年代に入ると大手量販店の進出や物流・鮮度管理など、生鮮流通機構に大きな変化が起ったことと海洋汚染による魚介類の販売不振が発生したために、これらの状況変化に的確に対応するために昭和48年9月に県内の7協同組合が大同団結して連合会が法人化された。

その後、千葉県の鮮魚小売業振興特別交付金を活用して①鮮魚小売商の組織化と連合会の組織強化、②鮮魚小売業者の経営安定化対策、③消費者に対する魚介類の食品安全性の啓蒙宣伝などの事業を実施して成果をあげてきた。



木更津鮮魚商協の執行部
前列左より鈴木副理事長、齊藤理事長、青木副理事長、
後列左より、鈴木会計理事、渡辺専務理事

当組合は昭和46年に卸売市場法が施行され市場が私営から公営になったのを機に、昭和47年10月に木更津市、君津市、市原市、富津市、君津郡の業者117名により設立された。主な事業は代払事業（平成18年度実績23億8157万円）と魚食促進や地産地消等の販売促進事業。さらに地域の収穫祭への参加、子供料理教室、老人ホームの慰問などと幅広く活動している。齊藤理事長は県鮮魚連の副会長、木更津鮮魚商の理事長の他市

■ 千葉県鮮魚商（協連）

所在地	千葉市中央区千葉港 4-2 千葉県中小企業団体中央会内
代表者	林 政和
会員数	4名（出資金 44万円）

■ 木更津鮮魚商（協）

所在地	木更津市新田 3-3-12
代表者	齊藤 卓
会員数	94名（出資金 470万円）

場や料理店組合の役員等多くの公職を兼務している。

齊藤卓氏は昭和18年肥後熊本生まれ。地元の学校を出てコカコーラボトラーズの宣伝マンだった頃、友人の紹介で化粧品会社に入った奥さんと結婚。それを機に岳父の磐根にあった旅館を手伝うようになり、板前の腕を磨いた。

平成元年には木更津駅近くに割烹料亭を出した。ここは四季味宴席「たく」といい、個室風の落ち着いた雰囲気の中で、木更津近海でとれる地のものを使った四季折々の味覚が満喫できるところ。メニューがなく、その日市場で良いモノを吟味して出すお任せコース。（ランチの「木更津井」も日本橋高島屋の千葉物産フェアでも好評を博した絶品。）

齊藤さんの一日は長い。朝は3時に起床、4時半には市場に来ている。仕入れを済ませて組合事務所立ち寄り決裁等の理事長業務を終えて事務所を出るのが7時頃。店に戻ったら、その日の仕込みが始まる。それから仮眠はとるものの夜の10頃までは店にかかりつきりで、寝るのはいつも12時近くになってしまいうそう。

特技・趣味をお伺いしたら「料理」。信条、モットーは「和」。これからの夢は「皆が幸せになること」とのこと。

一男一女のお子さんは既に独立。奥様と木更津に在住。



▲鮮魚連の新年会



四季味宴席「たく」のファサード▶